『対話性の境界　ウーヴェ・ヨーンゾンの詩学』の合評会に参加して
ドイツ語圏文化論教室２年　淵上佳奈

2023 年 1 月 20 日に行われた、金志成先生の著作『対話性の境界　ウーヴェ・ヨーンゾンの詩学』の合評会に参加しました。本の内容の面白さはもちろん、学部 2 年生の身としては、本を論じるとはどういうことか、同一のテーマについてどのように他者と意見を交換するかを学ぶことができた、大変有意義な会でした。

会の導入として、金先生ご本人から本の概要についての発表がありましたが、まずこれが貴重な機会だったと思います。まとまった文章の概要あるいは要点の説明を行うというのは存外難しいのだということを、大学生になりたくさんのレポートを書くようになって痛感しました。文章の重要な点を正しく理解し簡潔にまとめるのには、それなりの理解力と文章力が必要になるからです。分かったつもりになっていてもいざ説明しようとするとできない、ということがよく起こります。本の著者自身が語る本の概要というのは、この点を学ぶのに絶好の機会だったと思います。要点を提示し、それを説明するための最も重要な情報のみをまとめ、特に小説に関する章については引用を最小限かつ効果的に使用するなど、勉強になることばかりでした。

また、興味深かったのは、発表者の皆様の視点の違いでした。はじめに発表されたフランス語圏文化論教室２年の米原さんは、エピグラフについて掘り下げる内容で、今回の合評会が「本」を対象にしていることを印象付けるものでした。早稲田大学修士１年森野さんは、ご自身が研究されている作品との比較を通し、ジャンルという視点からの質問をされていました。フランス語圏文化論教室博士１年の高波さんは、金先生の著作を読み込みご自身の言葉でコメントされている、まさに批評というような発表でした。ドイツ語圏文化論教室の教員として発表された福岡麻子先生は、内容についてはもちろん、研究者としての金先生の姿勢や文章そのものの長所についてふれ、この本の意義を述べられていました。そして最後には、フランス語圏文化論教室の教員で会の主催者でもある西山雄二先生が総合的な講評をされていました。同じ本に対しても多種多様のコメントが出てくるのはとても面白かったですし、様々な視点で文章を読むという基本的でかつ難しい姿勢を身につけるために意義深いものであったと実感しています。

この会の様子は、西山先生の YouTube チャンネルにアップロードされていますので、これを読んでくださっている皆さんもぜひご覧になってみてください。(https://youtu.be/t8cDR9ymu6g, 2023 年 2 月現在)そしてもちろん、『対話性の境界　ウーヴェ・ヨーンゾンの詩学』（法政大学出版局、2020 年）も皆さんお読みください。特に学部生の方はぜひ。私もまだ読み進めている最中ですが、学部生でも十分に理解できる丁寧なつくりになっています。この点は合評会でも西山先生が指摘されていて折り紙つきです。また、内容だけでなく本の形式そのものが、自分自身で文章を書くときの参考になります。さらに、新しくドイツ語圏文化論教室に入って来られる学生の方であれば、本を読むことで金先生

がどのような論述の展開をするのかも体感できるので、授業に慣れるための準備になるかもしれません。

一緒に参加していた同学年の友人と、帰り道に「院に進学してもっと勉強したくなってしまうね」と話したほどに、学びになった上に勉学に対する向上心が掻き立てられる素晴らしい会でした。